



学校法人東北医科薬科大学 様

業種	教育
拠点	キャンパス2箇所、附属病院2箇所
製品種別	電子取引Save Standard
運用開始時期	2024年1月
導入目的	改正電子帳簿保存法 電子取引データの保存義務化への対応

導入前の課題

改正電帳法施行前の段階で、毎月1000件以上の電子データの受領が見積もられており、電帳法の検索要件を充足するように保存するためには、かなりの事務手間がかかることが予想された。

証憑を受領する部署が、各教室や各教員など、広範囲にわたるため、必要なデータをどのように集めるかが課題だった。

導入の決め手

取引データを集中管理することで、取引データの保存方法の統一や、一括バックアップを行うことができる。

入力作業の負担を軽減でき、その分、他の作業に時間を使うことができる。

運用までの過程

2023年6月	2023年7月~12月	2024年1月
電子取引Save導入 インストール・構築	運用前テスト	運用開始

運用方法

教室1

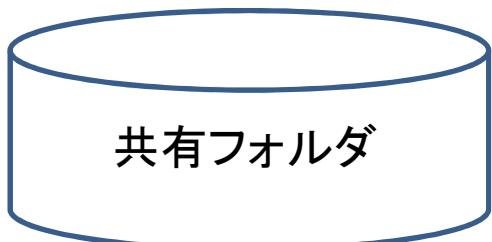
教室2

部署1

部署2

電子取引データ

各教室、部署の担当者が電子取引データを共有フォルダへアップロード



共有フォルダ内の電子取引データを財務課内の担当者が電子取引Saveへ一括保存



フォルダ1: 収益

大学

大学病院

若林病院

注文書

請求書

その他

フォルダ2: 費用

大学

大学病院

若林病院

注文書

請求書

その他

書庫(フォルダ)の構成を収益と費用に統一し、取引データの一括管理

取引データが一括管理されているとデータのバックアップが簡単に行えるほか、データベースから取引データを検索することができるため取引情報の確認を簡単に行うことができている。

導入の効果

100か所以上のグループごとにバラバラだった保存方法が保存要件を遵守する形で統一され、すべてのデータをバックアップする環境が整えられた。フォルダに保存する感覚で直感的にデータの保存ができるため、殆ど訓練をせず運用を開始することができた。

電子取引Saveへの保存業務は財務課の担当者1名が行っているが、ある程度推測で入力に必要な個所が自動入力されるため、ミスも殆どなく保存が簡単に行え、当初は面倒と思われた保存作業も苦にせず行うことができている。

病院には閲覧権限のみのアカウントを与えおり、保存されたデータの確認が即座に可能となった。